

中欧モダニズム／ナショナリズム／ローカリズム 問題構成と方法論をめぐる若手ワークショップ No. 2

19世紀半ば以降、中欧各地に出現した芸術・文化の諸現象は、国民国家・国民社会の形成との関連で位置づけられる一方、リベラル・ナショナリズムに対抗する美的モダニズムという観点からとらえられてきた。だが具体的事例の考察は、国民国家単位での芸術・文化史記述ならびに言語メディア／視覚メディア／音響メディアの区分による学術研究体制に規定されるところが大きく、きわめて近い問題関心をもつ研究者同士が意見交換の場を確保することも、容易ではない。

この状況を打開するため、2009年3月に大阪大学グローバルCOE「コンフリクトの人文科学」の研究活動の一環として開催された「中欧モダニズム／ローカリズム」ワークショップは、研究者のネットワーク化と問題意識の共有化という点で大きな成果を挙げ、その一部がすでに報告書『交錯するアート・メディア』（大阪大学グローバルCOE刊行）に収録された。今回のワークショップは、そうした成果をさらに展開させようとするものである。

議論にあたっては、モダニズム／ナショナリズム／ローカリズムの3つの局面を設定し、相互の対立・併存・依存の様相を明らかにするために、個別の検証事例を持ち寄る。それらについて全員で討議することにより、中欧における芸術・文化研究の問題構成、ならびに研究方法論について理解の共有と深化をめざす。

【プログラム】

7月17日（土）

- 14:00-14:30 オープニング 三谷研爾（大阪大学文学研究科）
- 14:30-15:30 報告1 川島隆（滋賀大学経済学部）：
カフカの見た「ユダヤ民族ホーム」― 民族主義とソーシャルワークの接点
- 15:30-16:30 報告2 重川真紀（大阪大学博士後期課程）
ポーランド・ナショナリズムとシマノフスキ
- 16:30-17:30 報告3 西村木綿（京都大学博士後期課程）
ナショナル・アイデンティティと社会主義 ― ユダヤ人「ブンド」のウラディミール・メデムをめぐる試論

[懇親会]

7月18日（日）

- 11:00-12:00 報告4 小野尚子（大阪大学博士後期課程）
ムハ《スラヴ叙事詩》に絡むナショナリズムの変遷

12:00-13:00 報告5 佐々木茂人 (京都外国語大学ドイツ語科)
ローカルとナショナルの出会い ― ロマ作家のライフヒストリーに見る
文化の創出

[休憩]

14:00-15:00 報告6 奥山裕介 (大阪大学博士後期課程)
19世紀デンマーク文学におけるユラン地域の表象

15:00-16:00 報告7 飯田皆実 (大阪大学博士後期課程)
旧東ドイツ都市ドレスデンの詩学

16:00-17:00 報告8 高岡智子 (甲南大学博士研究員)
社会主義とポピュラー音楽 ― 「東ドイツらしさ」の誕生とその起源

会場 大阪大学文学部ドイツ文学研究室 (文学部本館4F)

◎ 参加をご希望の方は、あらかじめドイツ文学研究室 (06-6850-5116) までお問合せください。